

ヘビに注意

関連単元

1.身近なしげんのかんさつ

- 植物の育ちとつくり
- 自由研究 てかけよう しげんの中へ
- いろいろなこん虫のかんさつ
- 植物の一生

1.春の自然(4年)

- 夏の自然
- 秋の自然

有毒のヘビとして知られているマムシ、ヤマカガシ、ハブに気をつける。

咬まれないために

1

毒ヘビの特徴を知ろう。

①マムシ（体長40～50cm）

- ・頭部は長三角形で、太くて短く、背面は茶褐色地で黒褐色の銭形の斑紋が交互に並んでいる。
- ・南西諸島を除く日本各地に分布し、平地、山地、森林、水田、畑、湖沼、河川周辺など、様々な環境に生息する。
- ・マムシは攻撃性の少ないおとなしいヘビである。
- ・誤って踏んだり、捕まえようとしたりして、咬まれることがある。

マムシ



②ヤマカガシ（体長60～160cm）

- ・背面は褐色地に黒斑と赤斑が入り混じり、首に黄色の帯がある。
⇒体色は地方によって変異が大きいので、居住地域に棲息するヤマカガシの体色を調べておく必要がある。
- ・本州、四国、九州に分布し、平地から山の麓の水田や河川などの水辺に生息する。
- ・おとなしいヘビであるが、「毒ヘビ」である。
- ・このヘビの毒牙は口の奥深くにあり、腕や脛を咬むときには毒牙は肌に当たらないが、のみ込まれるように咬まれると毒牙に届き、血液凝固を阻止する毒液が注入される。さらに問題なのは、頸部背面に並ぶ頸腺で、ここから噴出する白濁した毒液は皮膚や目に入ると、強い炎症を起こす。頸部に毒腺を持つのはこのヘビだけである。
- ・このヘビの毒が静脈に入ったときの毒性は、コブラ並といわれている。

ヤマカガシ



③ハブ（体長100～220cm）

- ・ハブは、ハブ属（4種で、他にヒメハブ、サキシマハブ、トカラハブがいる）の中の最大種で、毒量も多く攻撃性が強い。
- ・頭部は三角形で、首は細く、背面は黄褐色地に黒い斑紋がある。
- ・奄美、沖縄諸島に分布し、平地にも山地にも生息する。
- ・森林・畑（特にサトウキビ畑）・ソテツ林に多く、ときには家屋内にも侵入する。
- ・木に登ることもあるので、頭上にも注意が必要である。
- ・昼間は、石垣や草むら、倒木の下などに潜み、夜活動する。
- ・動物の体温とにおいに反射的に反応して、素早く咬みつく。

ハブ



2

ヘビを見たら

- ・ヘビを見つけたら、刺激しないように距離をおき、ヘビの進む方向や興奮度を見極める。捕まえようとしない。また、死んでいるように見えても触らない。

もしも、咬まれたときは

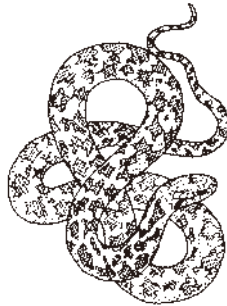
- ・どのようなヘビに咬まれたかがわかるように、ヘビの特徴を記録しておく。
- ・体を動かすと毒のまわりが早まるので安静にして救急車を呼び、速やかに医者に診せる。
- ・毒が回らないようにと紐で縛ったり、傷口をナイフで切って毒を吸い取ったりという方法は、よい結果にはならない。

へびに気をつけよう

● かまれないために

1 どくへびのとくちょうを知ろう。

- マムシ(体長40～50cm) • ヤマカガシ(体長60～160cm) • ハブ(体長100～220cm)
 - ⇒頭は長三角形でどうたいは太くて^{みじか}短い。
 - ⇒せの色は茶色っぽく、黒っぽいだ円形のもようがたがいちがいになっている。
- ヤマカガシ(体長60～160cm)
 - ⇒せの色は黄色っぽく、黒や赤のはんもんが入りまじる。首すじは黄色。
 - ⇒せの色は地いきによってちがいがあるので、自分たちの地いきにいるヤマカガシの色を^{しら}べておく。
- ハブ(体長100～220cm)
 - ⇒頭は三角形で、首は細い。
 - ⇒せの色は黄色っぽく、黒いはんもんがある。



2 へびを見つけたら

- しげきをあたえない。
- つかまえようとしない。
- 死んでいるように見えてもさわらない。

3 どくへびがいる地いきでは、次のことに注意しよう。^{ちゅうい}

- はだしやぞうりて歩かない。必ず、くつや長ぐつをはく。
- 長そでの服^{ふく}、長ズボンを身につける。
- できるかぎりしげみの中をさけ、道を歩く。
- へびは昼間、たおれている木の下や木のあな、岩の間、あなの中などにひそんでいることが多い。ふ用意にこれらの中に手を入れない。

● かまれたら

- すぐに先生に知らせ、かんだへびがどんなへびだったかもおぼえていればつたえる。
- 体を動かすとどくのまわりが早くなるので、きゅう^{きゅう}急車が来るまでその場で動かない。